

折に触れ 四字熟語

NO. 96 『富貴浮雲』 ふうき ふうん

< 意味 > 不正な手段を用いて得られた、富や地位のこと。

< 出典 > 「論語」<述而^{じゆつじ}>

「子曰、飯疏食、飲水、曲肱而枕之。樂亦在其中矣。不義而富且貴、於我如浮雲。」

読み下し：『子曰く、^{そし}疏食を食らひ、水を飲み、^{たつと}肱を曲げてこれを枕とす。楽しみ亦其の^{うち}中に在り。不義にして富みかつ^{たつと}貴きは、我において浮べる雲の如し。』

通 釈：孔子言う、粗末な食物を食べ、水を飲み、肱を曲げて枕替りとするような、極めて貧しい境遇の中にあっても、道に志す楽しみはおのずからその中にあるものである。不義を行って得る富貴などは、自分にとっては、あの集散常なき浮べる雲を見る如く、なんら心のわずらいとなるものではない。

語 釈：「富貴」は財産があつて身分がたかいこと。

一 言：論語シリーズ その8

NO. 95と同じ出典による四字熟語ですが、<読み下し>以下は諸橋轍次著「論語の講義」によるものです。ご承知の通り、日本では論語の訳がたくさんあり、その読み下し、通釈によってかなり味わいが違います。

カルロス・ゴーン会長不正のニュースは、止むことなくテレビ、新聞などで取り上げられています。日本においては、日産自動車および三菱自動車はカルロス・ゴーン会長を解任しました。日産自動車の危機を救い、業界を越え世界を股にかけて、さまざまな面で活躍をしていたゴーン会長が一気にその名声と地位を失墜させてしまいました。まさに、浮雲のように儂く。

参照文献：大衆化書店・諸橋轍次著「論語の講義」 三省堂「四字熟語辞典」